

2007 年度

科目名 経済と社会 A	対象学科・学年 文学部日文1 回生 文学部英米1 回生 文学部文財1 回生 人間人社1 回生	担当者 次田 健作
授業テーマ 「経済」と私たちの暮らしから社会を見る		
授業の概要と目標 経済不況が長引き、金融事件や倒産などさまざまな経済関連の事件が相次ぐなか、現代の経済について関心がないわけではないのですが、「自分」にとって「経済」は、どことなくよそよそしく疎遠なものと感じられてはいないでしょうか。しかし、現実には、私たちの暮らしのなかの、ものの食べ方、飲み方、捨て方、洗いや方等々あらゆる事柄が、日本とさらには世界の政治や経済に関わっているはずなのです。単なるお金や物の流れ、生産や消費ではなく、私たちの暮らしや生き方に根を持つ「経済」へと顔を向けていく作業を、国際経済をも視野にいれながら、共に考えていきたいと思っています。		
評価方法 年度末にテストを行う。		
テキスト 特に指定しない。必要に応じてプリントや資料を配布しながら授業をすすめます。	著者	出版社
参考書 授業の中で、その都度テーマに応じて指示・紹介します。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1) 「経済」ってどんなイメージ —— アンケートの実施 —— 2) 一年の授業をどんな視点ですすめていくか —— アンケートの結果を踏まえて —— 3) 「お金」って何? —— 「お金」の不思議 —— 4) 欲望と経済 —— 私たちは何を願うのか? 5) 経済と情報化社会 —— 情報とは何か? 6) 「経済」とエコノミー I —— 「経国済民」から「経済」へ —— 7) 「経済」とエコノミー II —— オイコスとノモスから生活の視座へ —— 8) 生産と消費の概念をめぐって 9) コインと統計 —— 一円硬貨の発行高から戦後経済を考える —— 10) 経済学的なものの見方とは? 11) 経済学的なものの見方 ① つながりと連関の視点 12) 経済学的なものの見方 ② ストックとフロー、コストとベネフィット 13) 経済学的なものの見方 ③ マクロの経済とミクロの経済 14) 経済学的なものの見方 ④ 名目と実質の区別 15) 経済学的なものの見方 ⑤ 未来を描く力		